

## 精華町水道の現状と今後

### 1. 精華町の水道

本町の水道事業は、昭和34年11月に創設認可され、昭和36年7月より給水を開始して以降、数回の拡張事業を重ねて現在の状況に至っています。

現在の第4次拡張計画では、計画給水人口40,400人、計画1日最大給水量16,900m<sup>3</sup>となっています。

平成30年度末における給水人口は37,339人、1日最大給水量は12,645m<sup>3</sup>、水道普及率は99.76%となり、本町水道事業は、学研都市建設などによる整備促進と並行して、持続性ある維持管理及び安定運営を図っていく必要があります。

### 2. 精華町水道の水源

本町の水道水源は、町内の6箇所の深井戸を水源とする自己水(5,900m<sup>3</sup>/日)と、京都府営水道から供給を受けている府営水(11,000m<sup>3</sup>/日)に分かれます。

### 3. 京都府営水道料金単価の変遷

(円/m<sup>3</sup> : 税抜)

適用時期		木津系		乙訓系		宇治系	
		建設負担料金	使用料金	建設負担料金	使用料金	建設負担料金	使用料金
実績	H26.4.1～H27.3.31	71	34	73	34	41	18
	H27.4.1～H28.3.31	66	20	66	20	41	18
	H28.4.1～R2.3.31	66	20	66	20	44	20
予測	R2.4.1～	55	28	55	28	55	28

令和2年度以降の新料金単価(予測)を平成30年度決算で試算しますと、上記の建設負担料金と使用料金で構成される京都府営水道への支払は、約2千万円の減額となる見込みです。

### 4. 精華町水道の今後

平成30年度決算において、水を1m<sup>3</sup>造るのに必要な給水原価が195円13銭/m<sup>3</sup>、供給単価は121円43銭/m<sup>3</sup>となっており、水道事業経営の指針である料金回収率(給水に係る費用が、どの程度水道料金で賄えているかを示す指標)は、62.2%あります。

今後は、町内における水需要の変動に対応しつつ、事業収支構造の改善を図りながら、料金回収率を向上させて、精華町水道事業の持続性ある安定運営を実現できるようさまざまな検討を行ってまいります。